32年度 町決算

再建計画、軌道に乗る

赤字830万円を解消

財政再建計画の第一年度に当る昭和三十二年度の町の決算は注目されていたが、三十一年度の赤字三千六百万円を二千八百万円に減らして八百万円の赤字を解消し計画のとおり施行され、健全財政へ第一歩を踏み出した。

昭和三十二年度の当初歳入予算は一億五千万円で、三十一年度の当初予算より二千八百万円少なかったが、歳入決算額は一億七千万円で三十一年度より千七百万円の減となっている。

町税は予算現額に対しては九五%、調定額に対しては八三%の収入で、滞納繰越は約二千万円残っており、町税全体としては三十一年度に比べると約五百六十万円の減であった。

歳出については、ほとんどの科目とも予算の九〇%以上の支出で、合計では予算現額の九六%に当る一億九千九百万円が支出され、六百万円の不用額はあったが実収入総額からみれば一一七%の支出で、結局、形式的収支では二千八百万円の赤字であった。

しかし支出総額は三十一年度より二千五百万円の減で人口一人当りの額は五千三百七十三円で全国市平均（三十一年度四万～三万の人口の市）五千八百六十円と比べると四百八十七円下回っている支出額の投資的経費は一二%の二千四百万円で主な事業内容は臼井、庄瀬両中学校の増築、萱場橋架設庄瀬―真木、上木山―平潟道路の改良、可搬式動力ポンプの購入などである。また、消費的経費は六二・九%で一億二千五百万円となっている。

◇赤字解消の状況

昭和三十一年度の赤字額は三千六百六十万九千円だったが、三十二年度は二千八百二十七万二千円に減ったこれは三十二年で八百三十三万七千円の単年度黒字を出したことと同じで、その額だけ赤字が解消したわけだ。

白根町は昭和三十二年度から四か年で合併当時の赤字三千六百万円をなしくずし的に解消しようとする財政再建計画を立て、三十二年度はその第一年度目である、だけに注目されていたが計画のとおりに実施され、健全財政確立へ一歩近づいたともいえる。

昭和32年度一般会計決算額　（単位千円）

歳入	収入済額	予算現額に対する%
町税	97,056	95.1
地方税交付金	32,815	106.1
使用料及手数料	708	102.5
国庫支出金	1,346	102.7
県支出金	7,035	100.5
寄附金	4,712	99.0
繰入金	1,000	100.0
雑収入	152	99.3
町債	18,630	40.5
歳入合計	7,200	61.5
	170,654	83.0

歳出	支出済額	予算現額に対する%
議会費	2,933	99.4
総務費	40,442	99.7
民生費	6,621	93.4
衛生費	16,867	97.9
農林水産業費	33,765	96.1
商工費	9,490	96.0
土木費	4,005	93.1
教育費	21,865	94.6
災害復旧費	718	93.1
公債費	136	76.5
諸支出金	120	82.0
予備費	9,071	100.0
歳出合計	52,893	96.7
	198,926	96.7

歳入歳出差引額　△ 28,272

昭和32年度特別会計決算の状況　（単位 円）

区分	歳入決算	歳出決算	差引額
国民健康保険直営診療施設	53,288,671	64,024,453	△10,735,782
公益質屋	11,474,746	11,440,602	34,144
白根地区上水道	2,597,389	2,357,605	239,784
大郷地区簡易水道	13,195,664	15,887,555	△2,691,891
新飯田地区簡易水道	11,387,019	11,319,487	67,532
臼井鷲巻地区簡易水道	1,299,299	1,196,180	103,119
茨曾根地区簡易水道	15,793,493	15,655,430	138,063
	19,091,318	19,084,361	6,957

寫生大会会場

豆画伯千二百名が参加

―秋の子供写生大会―

町の公民館主催の秋の子供写生大会は、十月十五日町の各校から一千二百余名（小学生九百四十名、中学生二百八十名）のよい子たちが参加して白根地区郊外で行われ、絶好の写生日和に恵まれて楽しく筆を走らせていた。

入賞者の中、金賞受賞者は次のとおり

◇小學生の部

●一年生　五十島まこと、坂井としえ、加藤のぶ子、●二年生袖山しげお、石田たかし(松)広木一郎●三年生加藤人司、鈴木光恵、佐久間奥(庄)●四年生桜井けい子(庄)横山静枝(日)斉藤昭雄●五年生大谷隆市、丸山一幸、外川和夫、片野忠一●六年生袖山忠雄、勝本ヨシイ(庄)大竹令子(日)

註　(庄)＝庄瀬小、(松)＝松橋小、(日)＝臼井小、記入のないのは白根小

◇中學生の部

●一年生笠原靖夫、和平諒一、松原光子(日)●二年生吉田洋子、長井源太郎(庄)斎藤晴夫(庄)●三年生赤塚稔、今井一夫、長谷川トミイ

註　(日)＝臼井中、(庄)＝庄瀬中、なし＝白根

十月一日からメートル法が準備のため、実施されています。

一升一・八リットル、百匁は三七五グラムです。あなたの身長や体重もメートルとキログラムで……

県展に十氏が入選

―西脇氏ら五氏が特選！―

県の秋の美術を飾る文化祭県美術展（十月二十一日より十一月三日まで、新潟市で）に、町の美術団体蒼穹会の同人も参加し、左の諸氏が入選した。

▽洋画　●奨励賞小田哲、新田公彰、西脇登、巻口真弘●入選和田清治、関根慶吉

▽日本画　●奨励賞外川利雄●入選田中武夫

▽書道　●入選薄田彰

▽工芸　●入選羽下貴美

駐在室を充実、改善

かねて地区民から要望のあった駐在室の改善、充実について、町当局でも機構を改組して、その要望にこたえることとなり十月十三日より、各駐在室を事務員二名、保健婦一名、使丁一名に増員し執務した。

"病人をなくそう"

―健生病院 集団検診と生活指導―

健生病院では、病人のいない町をつくろうという理想のもとに、公衆衛生、環境衛生を広くおしすすめ、町民の健康状態や衛生状態をよくするため、集団検診等により、病気の早期発見や栄養指導、生活指導等を普及する方針だが、その第一回として白根地区スワノ木の二町内会の四十才以上を対象として九月末と十月中旬に第一回の検診を行ったこの町内会は幹部の人たちも積極的に協力し、〝健康を守る会〟はなどやかに行われ高血圧病や糖尿病等の老人病が相当数発見された。

病院では一月一回検診を行いたい意向だが、現状では手が回らないため三月に一回実施し、栄養、生活問題についても指導して病人のいない町を目ざして努力し地域住民から集団検診の要望があれば協力できる範囲で指導したいと語っている。

驚巻地區公民館長を表彰

―県公民館連絡協議会―

眞柄氏

去月十九、二十両日、中頸城郡妙高中学校で開催された第九回県公民館大会の席上、優良公民館長として驚巻地区公民館長真柄正三郎氏が新潟県公民館連絡協議会長より表彰された。

同氏は昭和二十五年驚巻村公民館長以来引続き館長の職にあって常に社会教育振興を念頭におき住民の福祉社会的地位の向上に貢献された功績が大きく今回の栄誉を得られたものである。

町稲作競技会

町の今年度の青年稲作増収競技会は十月二十五日に実施された。これは各地区から一点づつ予選会を行って優秀田を推せんし、それによって審査を行うもので、その結果、一位青山曾之七（茨曾根）反収四石二斗四升五合六、二位相田促(新飯田)同四石三升〇合四、三位藤宮弘(小林)同三石九升四合三の成績で、天候不順で全般的に記録は昨年より悪かったが、しかし、反当十俵余の収獲は立派。

公民館クロ

◇公民館職員研修会

新津、五泉、中蒲公民館職員研修会は十月二十四日、白根町で開催され、各市町村の公民館職員四十二名が参加し、講師に県教育庁社教主事三名を招いて行われ公民館活動と職員のあり方など三つの分科会に分れて研究討議し、午後四時終了した。

◇フォークダンス講習会

中央公民館では十一・十二月中各第一、第三日曜の午后七時半から白根校体育館でフォークダンスの講習会を開く、持参品は運動靴、会費不要、一般の参加を歓迎。

編集後記

▼刈り入れも終ってホットひと息。豊作を夢みたのだが▼市制問題、サイは投げられた。白根市へのカギは自治庁と県に預けられたわけ▼遠からず結果が判るだろう。そのときには白根市が実現する、しないにかかわらず、賛成、反対の両派もわだかまりを捨てて、大白根を建設しよう▼新国道＝町会も百八十度転換の決議。まだ問題は残っているが白根の発展のために明るいニュース▼夜更け―さすが晩秋、風は鋭く肌をさす中天のスバルを追ってオリオンが東天より上る(長田)

白根見てある記

ケースワーカー

【5】

生活協同組合による白根健生病院（加入者約二千八百世帯、出資額約二百八十万円）は県で初めてのケースだけに各方面から注目を浴びているが、開院後三か月その事業もようやく軌道に乗り始めたという感じだ。

この病院の事業の一つに医療社会事業部員（ケースワーカー）を置いて病気でない生活問題の相談に応じているが、これを判ってもらうために実例を示そう。

九月のある日、A地区のB子さん(十七)は病院に「眠れないから睡眠薬をもらえないでしょうか。」

そこで役場、民生委員、病院、親せき（B子さんの家に呆れて来なかったが）が集って相談し、B子さんの就職口を探し、朽ちた家を役場の援助で建て治し、結核の母を医療保護により療養所に入れ父もマジメに働く者の条件でB子さんの家庭を救うことにし、B子さんは東京の某家の理解ある好意で就職が決まり、十月十七日故郷を旅立った。

暗かったB子さんの生活にも光明が見え始め、B子さんの家庭もドン底から浮べそうだ。

これは役場＝民生委員＝ケースワーカーが協力してB子さんを救った例だが、ユガンだ社会から生じる、処方せんでは治療できない病気を発見、治療するのがケースワーカーである。

と嘆願したが、診察すると別に身体に異常、欠陥はなく、他の原因による不眠らしいので、B子さんの家庭をケースワーカーが調査すると『家族は大酒の父、結核の母、中学生の弟、B子の四人。極度に貧乏で学校にも満足に行けない。B子が就職しても父がすぐに前借するので長つづきしない。父子の仲が悪い』ということが判明。B子さんの不眠の原因もこの辺にあると推測され、またB子さんも人並みの生活を望み、仇く能力のある人間であることも判った。

病院ではこの種の事業をもっと積極的に推進し、貧しさのために医者にかかれない人たちを救済する体勢を早く作り、相談に乗り出したいといっているが、ケースワーカーに大きく期待したい。

病院の手術室には現代医学の粋を集めた一流病院級の設備があり、また臨床検査室で病菌の抵抗性や薬剤の効力等を検査して適切な処置をとるようにしているので、複雑な病気や大手術も可能だ。「しかし設備がいい、医者が多いから……となんでも病院に診察を乞うのは考えもので、病気の容体により集団組織(病院)のよさ、また家庭医(開業医)のよさに依頼すべきでチョットしたカゼや腹痛等の軽い病気、身体の異常等はやはり開業医に診察してもらい、相談した方が親身になって世話してくれるし、患者と医者と緊密になっていいのではないか。」とも語っている。

【G・P】

―近代的設備を誇る手術室―